

# Care & Communication

ケア&コミュニケーション

P1-2

## INSIDE REPORT



患者と一緒に成長する  
快適な歯科医院を目指す

鈴木歯科医院 院長  
鈴木 健一 先生

P3-4

## THE FRONT LINE



海外も視野に入れ、  
高い技術と組織力で勝負する  
歯科技工所

ケン・デンタルリックス株式会社  
松浦 賢治 代表取締役

P5-7

## DOCTOR'S TALK



レーザー療法での症例と実践応用講座 3

Nd:YAGレーザーによる行田(ナメタ)・メソッド  
レーザーでも治らなかった  
根尖病変

医療法人社団 は・匠会 理事長  
行田 克則 先生

# 患者と一緒に成長する 快適な歯科医院を目指す

鈴木歯科医院 院長 鈴木 健一 先生

鈴木歯科医院は、仙台駅から車で15分ほどの商店街と住宅街が混在する地域にある。「歯科医院らしくない歯科医院」を目指した居心地のいい空間には、数多くの患者が訪れている。地元密着型歯科医院の「今」をうかがってみた。



鈴木 健一 院長

歯科医院が入るマンション



歯の外灯が目立つ入り口



落ち着いた雰囲気の受付



間接照明を生かした待合室



昔の理科室をイメージして増築した中待合



未使用の診察室には古い診療台を飾る

## 居心地の良い快適性を 重視して開業

鈴木歯科医院が開業したのは、2007年7月。岩手県盛岡市出身の鈴木健一院長が現在地を選んだのは、開業前に近くの歯科医院に勤務し、土地勘があったからだ。

開業時、鈴木院長は歯科医院の個性にもなる患者層を想定した。院長の年齢プラスマイナス3歳の女性だった。「同世代なら、将来にわたって長く時間を共有できること。治療内容も私の加齢と治療技術の変化に合わせられると考えました。女性を想定したのは、主婦層が多い地域だからです」

しかし、ふたを開けてみると女性は6割、男性が4割。年齢層も20代後半から50代が中心。高齢者も目立つ。「開業前に考えた予想とは外れました」と鈴木院長は笑う。しかし、女性が好む「居心地のよい快適性」を重視した院内の設備とサービスは、どの世代からも好感を持って受け入れられ、鈴木歯科医院の個性になっている。

## 知恵を絞り、ローコストで 快適性の高い増改築に取り組む

誰もがほっと落ち着く雰囲気を持つ鈴木歯科医院の中で、目をひくのは昨年秋、増改築した診療スペースだ。マンション

の1階にある鈴木歯科医院は、壁を取り壊せば、既存の部分とつなげて一室として使える奥の店舗スペースを借り、床面積を広げた。

鈴木院長は、「考えるのが趣味の一つ」と話すほどのインテリア好き。内装にはこだわった。

清潔感のある白を基調に、アクセントには、明治・大正のクラシックな木製ドアや家具を配置。天井も高く、診療室前には、広々とした中待合のスペースが設けられている。木製ドアや家具のなかには、鈴木院長がネットオークションで手に入れたものもあるという。

「マンション内のため、改築には制限があります。予算も考えなければなりません。知恵を絞った結果がスケルトンを生かし、壁を作らないこと。一番、コストのかからない方法を選びました」

中待合に置かれた本や鉱物、熱帯魚などは、院長のコレクションだ。歯科医師は、院内で働く時間が長い。歯科医師の心持ちは患者さんにも伝わる。リラックスして診療にあたるため、お気に入りのコレクションを身の回りに置くことにしたのだという。「自分が好きなものを知ってもらうことで、歯科医院の個性を伝えられたら、という狙いもあります。コレクションやインテリアをきっかけに患者さんと話がはずみ、コミュニケーションが深まることもあるんですよ」

## 診療室を開放感のある個室に変え、専用の消毒室を新設

昨年の増改築ではもう一つ、力を入れたことがある。診療スペースの充実と専用の消毒室の設置だ。

診療室は、4台のチェアを個室化し、患者のプライバシーに配慮した。しかし、密室化すると開放感がそがれてしまう。そこで、ガラス窓を取り入れた。

「廊下から診察室が見えることで患者さんに安心感を与えることができますし、スタッフにも、いい緊張感が生まれたようです」

開放感のある診療スペースは、整理整頓の徹底にも役立っている。外に面した窓が大きく、廊下を歩けば一目で見渡せる診療スペースでは、雑多なものや掃除の行き届かない部分があれば、すぐに目についてしまう。こだわった空間だけに、ときには院長自らが掃除に参加することもあるという。

専用の消毒室を設けたのは、熊本県天草市で開業する生田園南先生のセミナーを受けたことがきっかけだった。

「あらためて院内感染を防ぐことの重要性を認識し、ちょうど改築するタイミングだったので、思い切ってユニットルームを改装し消毒室にしました。滅菌はスタッフの負担が明らかに増大するので、現在ではできる範囲から少しずつ取り組んでいる段階です。私たちの取り組みが分かってくれるように、消毒室もガラス窓で廊下からあえて見せるようにしました」

## 自分の性格に合う診療とサービスを取捨選択

「開業した頃は、ホスピタリティの言葉が流行っていました。誕生日を祝うハガキを出したり、季節のイベントを催したりといった患者さんサービスが目玉を集めた時代です。私もいろいろ考え、試してみたのですが、どうもしっくりこない。自分の性格に合わないことは長続きしないんですね。それよりも、患者さんが満足する治療に徹することが大切なのではないかと今は、治療内容を重視しています」

じつは、歯科衛生士の一人は、奥様の美和さんだ。奥様による歯科衛生士の視点からのアドバイスは歯科経営において、いつも参考になるという。他のスタッフとの間に立ち、院長とスタッフの意志の疎通を図ってくれるのもありがたいと鈴木院長は話す。

鈴木歯科医院は、スタッフ教育にも熱心に取り組んでいる。顕微鏡を用いた歯周病セミナーにもスタッフたちを参加させている。

そうしたこれまでの歩みの中から、2年前、診療項目に加わったのが「訪問診療」だ。「足腰が弱り、バスに乗ってくるのも大変になった」と話す遠方の患者からの一言をきっかけだった。日本訪問歯科協会に加入し、ポータブルの診療機器とレントゲンを購入。専用車も入手して、すぐに訪問診療を開始した。「気軽に始めたのですが、予想もなかった苦勞もありました。診療設備が歯科医院とは違うこと、患者さんの多くが重篤な持病を持っていることから、どうしても治療の難易度が上がります。私が治療に当たっていいのだろうかと思うこともありましたが、でも、お宅にうかがうと患者さんから心のこもった感謝の言葉をいただくんですね。それを聞くと、訪問診療を続けなければ、という使命感を感じます」

個室の診療室前の廊下



専用の消毒室



手術室も兼ねた診療室、マイクロスコープも完備



カウンセリングルーム



デジタルパノラマ



個室診療室

### Profile

#### 鈴木 健一 先生

- 1998年3月、松本歯科大学卒業
- 1998年4月、岩手医科大学歯周病科勤務
- 2003年、青森十和田さつき歯科医院に勤務
- 2005年、仙台市内の歯科医院に勤務
- 2007年7月、鈴木歯科医院開院
- 日本顎咬合学会
- 日本歯周病学会
- ドライマウス研究会
- 日本顕微鏡歯科学会

#### 鈴木歯科医院

住所:宮城県仙台市青葉区八幡1-4-22 1F TEL:022-393-4134  
HP:<http://suzuki-do.jp/>



鈴木院長先生、奥様の美和さん(右下)とスタッフのみなさん

# 海外も視野に入れ、 高い技術と組織力で勝負する歯科技工所

ケン・デンタリックス株式会社 代表取締役 松浦 賢治

全国有数の規模を誇る歯科技工所「ケン・デンタリックス」。松浦賢治代表取締役は独立以来、約30年に渡り、激動の歯科技工界を生き抜いてきた。その歩みと将来について、うかがってみた。



松浦 賢治 代表取締役

## 一歩先を見据え、 新たな分野にもチャレンジ

松浦賢治代表取締役が歯科技工士を目指したのは中学時代。彫金師のような、ものづくりの仕事に憧れた。その後、医療系のほうが安定していると考え、歯科技工専門学校で学ぶことにした。

23歳で歯科医院内の技工所として独立して以来、松浦代表は、つねに一歩先を見据え、チャレンジしてきた。開業当初は、鑄造冠など保険の仕事が多かったが、2年目からは、自費診療の仕事を増やしてきた。

今、海外に目を向けているのも、中国からの安価な歯科技工物が輸入され始めている事情を考慮してのこと。新たな潮流に対抗し、アメリカやカナダ、中国などを視野に入れ、販路を広げる挑戦を続けている。

今年2月には、ドバイのデンタルショーにも足を運んだ。歯科技工料は日本の半額。輸送コストを考えると採算は難しい。しかし、こうした課題を具体的に把握できるのも、どんな苦労も厭わず、現地の医療環境を調べるフットワークの軽さがあるからだ。

「今後の予測としては、CAD/CAMの普及によって技工料がコストダウンしつつある今、口腔内スキャンが進めば、国境の垣根が今以上なくなります。そうなれば、歯科技工物のグローバル化も加速するでしょう」

## 寸暇を惜しんで技術を磨き、 数多くの歯科医師から信頼を得る

「ほぼ毎週末、セミナーを受け、技術を磨きました。依頼が多かったのは、ミリング加工したアタッチメント義歯です。当時ではできる歯科技工士が少数だったので、口コミ経由で依頼して下さる先生も多かったです」

ラボも院内から院外に移り、勤務する歯科技工士も増えていった。そして今から20年前に株式会社化。現在は、近隣に医療関係の企業が多く、材料の調達もしやすい湯島に所在し、約45名の社員と2カ所の支社を抱えている。

順調に成長した理由を松浦代表は、歯科技工物にこだわったこと、と話す。

「生意気と思われても、患者さんの歯に最適と思えば、遠慮せずに提案することが歯科技工士の役割です。先生からの指示でも、プロの目から見て『うまくいかない』と思う仕事はしませんでした。そのこだわりを理解してくれた先生が結果的に長くおつきあいする関係になってくださったのだと思います」

## 歯科技工士の組織化と 技術力の向上で労働環境を守る

現在、ケン・デンタリックスの仕事の8割がインプラント。本数にすると年間2万本以上に上る。残り2割が自費のクラウンブリッジや義歯だ。ケン・デンタリックスの強みは、すべてのメーカー

本社2階にある技工室



工程管理画面を見て作業する



ユニークなインプラントジュエリー



本社1階の技工室



KAVOのプロッターを社員全員が使用する



湯島支社の技工室



オリジナルパッケージで大切に発送

本社3階にあるCAD/CAMコーナー



ケン・デンタリックスの主なCAD/CAMシステム機器



ストロマンCS2

デンタルウィング

エベレストシステム

プロセラジェニオン

KATANA

### 3つのこだわり

**こだわり1:** 歯科医院様に毎月小冊子やメールにて送付し、最新鋭の技術を共有しています。

**こだわり2:** 最初の一回で確実な補綴物が作製されなければ、患者様の満足は得られません。当社では、より精巧な技工物を作製するために最新鋭の機器を採用しています。

**こだわり3:** 「信用を積重ねたい!!」その思いから製作履歴をシステムで管理。先生方にご指摘頂いた問題点を改善し、「二度と同じ失敗を繰り返さない」、「速やかに対応したい」と考えております。

のインプラントを扱えること。そのため、日本の各地域から、依頼が舞い込む。

「インプラントが普及し始めた20年ほど前から、いち早く取り組み始めました。扱える歯科技工士が少なかったこともあり、インプラントの上部構造が作れるというだけでも仕事の依頼が舞い込む理由になったのですが、どのメーカーも作れるとなれば、さらに仕事の幅が広がります。技術力が認められ、いろいろなメーカーのセミナー講師も務めさせていただきました」

現在、ケン・デンタリックスには40人ほどの歯科技工士が勤務する。技術力を重視する松浦代表は、社員が希望するセミナーへの費用を負担し、積極的な参加支援を行っている。

また、社員の意識を高め、歯科医院への最新の情報提供や信頼を得るための研鑽など、「3つのこだわり」を明文化し、ホームページなどを通じて公表している(上図)。

さらにオリジナルの管理システム「LABOC」で作業工程を視覚化し、情報を共有することで業務の精度を上げている。「今は、初期投資がかかりすぎ、歯科技工士が独立するのが難しい時代です。一人の歯科技工士が、休日もなく長時間労働をするのも好ましいことではありません。であれば、歯科技工士を組織化し、工程管理表をしっかりと管理し、協力することで労働環境を改善していくことが大切です。そのためにも、ラボ全体の技術力を高める努力は欠かせません」



作業工程管理システム「LABOC」



ISO9001:2008認証取得

### 営業職の活躍やアイデア商品で仕事の幅を広げる

ケン・デンタリックスの特徴は、営業職が3名いることだ。そのうちの一人は歯科技工士の資格を持つ。営業職を設けるメリットは3つある。一つは、歯科技工士の職人的な仕事と歯科医師とのコミュニケーション的な仕事を分離することで、歯科技工士は技工物に専念できる。二つめは、営業職が歯科医師とのコミュニケーションを深めたり、学会などに展示ブースを出すことで、得意先を広げることができる。三つめは、歯科医院のコンサルタント業務にも携われることだ。

「歯科技工所はさまざまな歯科医院とおつきあいがあり、最先端の歯科技工も知っています。それらの経験を生かすことで、歯科医院のコンサル業務にご協力させていただければと思っています」

ケン・デンタリックスには、インプラントジュエリーのように、ユニークなオリジナル商品もある。インプラントを受ける患者が増えれば、インプラントを受けた病院ではなく、転院先でメンテナンスが必要になることもある。そのとき、どんなインプラントをどのように入れたのか、情報がきちんと分かれば転院先の歯科医師は安心して治療に当たれる。そこで、身につけやすいアクセサリーにインプラント情報を埋め込むアイデアを考え出した。「これからの歯科技工所はコストでは海外に勝てません。技術力とアイデアで差別化を図ることが重要です。歯科技工士が夢のある職業にするためにも、意欲的にチャレンジしていきたいです」

### Profile

#### 松浦 賢治 代表取締役

- 1978年、日本歯科大学付属歯科専門学校卒業
- 1980年、松浦歯科補綴設立
- 1989年、国際歯科技工学術大会テクニカルコンテスト銀賞受賞
- 1990年、ケン・デンタリックス株式会社設立
- スイスI.T.インプラント公認インストラクター
- スイスCM者アタッチメント公認インストラクター
- 日本歯科技工士会生涯研修認定講師
- ドイツWIELAND AGCマスターインストラクター
- KAVO CAD/CAMシステムマスターラボ
- 日本歯科大学付属歯科専門学校歯科技工士専攻科非常勤講師
- 東京短期大学歯科技工学専攻科非常勤講師

ケン・デンタリックス株式会社

住所:東京都文京区湯島3-27-3 TEL:03-3836-2236 HP: <http://www.ken-dentalx.com/>

## レーザー療法での症例と実践応用講座 3

Nd:YAGレーザーによる行田(ナメタ)・メソッド

レーザーでも  
治らなかった根尖病変医療法人社団 は・匠会  
理事長  
行田 克則 先生

## 1 行田メソッド

レーザーによる根尖病変への対応については今回のレポートで最後となる。根尖病変をレーザーで治すテクニックは2006年に筆者がクインテッセンス社のレーザー特集号で初めて紹介した。このテクニックのいい呼称はないかなと考えていたおり、レーザーを販売しているインサイシブジャパンの担当者より提案された「行田メソッド」を最近気に入って使っている。前号、前々号と根尖病変はすべてこの行田メソッドにより治療した。そこで簡単に行田メソッドを解説したい。まずX線写真により透過像が認められる症例が対象となる。こうした症例に①浸潤麻酔を行なう、②透過像の認められる根尖部付近の粘膜に探針で穴を開け、さらに骨面上に探針を滑らせ骨の菲薄部を探る、③続いて菲薄部に探針で穴を開ける、④探針による開窓部にレーザーのファイバーを挿入し病変部の骨壁に向かってレーザーを照射する。

以上の簡便なステップで終了し、作業時間としては2〜3分であることも特徴であるが、照射により疼痛が消失するといったことも大きな特徴である。今回レポートする症例は行田メソッドにより疼痛は消失したが、根尖病変部に化骨が認められなかったため、通常の歯内療法に移行した症例であり、その原因を探ってみたいと思う。

2 レーザーでも治らなかった  
根尖病変(図1~15)

1) 患者さんは某歯科にてメタルセラミックス装着後、根尖付近に腫脹および違和感を覚えたため数度にわたり根尖部の手術を受けたということだった。しかし手術後も病状に変化はなく、どちらかというと歯科診療に対する不信感を募らせながらも当院を受診した感じであった。従って患者さんは診療に対して消極的であり、クラウンを除去しての治療、根尖切除術の治療説明に対しては全く同意しなかった。そこで試しにクラウンを外さない行田メソッドでの治療説明をしたところ、それならお願いしたいということであった。

そこで2003年9月にまず1回目のレーザー照射を行った。約1週間隔で3回照射を終えたあたりで患者さんは違和感がなくなったと答えてくれた。そして、この頃になって患者さんの心がやっと開いてきたように感じた。患者さんによれば某歯科で3回手術をしたということであったが初診時のX線写真にも逆根充を施行した痕跡はなく、根尖付近粘膜上に切開痕があるのみであった。しかし過去の状況を知る訳ではないので歯科医として決して前医の批判をしてはならない。

2) 痛みは消失したが……

患者さんは痛みが消失したことで筆者を信用してくれるようになり、1カ月ごとにX線写真を撮り透過像の変化を覗いていくことを約束した。今までの経験から透過像の消失を期待していたのだが翌年の5月まで約8ヶ月間観察するも透過像の縮小化は認められなかった。この頃になると患者さんは再補綴することに同意する兆しを見せ始めていたので、相談した結果再補綴という決断を下した。しかし治療に至らなかったはっきりした理由は不明で筆者も、根尖の崩壊により根尖内の空洞化が強くレーザー光が到達しなかったのではないかと、しかしその他の症例でも特に根管内にレーザー光が届いている訳でもないし、などと考えてみたりした結果、物理的に空洞の体積が大きなことだけは一因になろうということのみが推察できた。

3) 根充はシーラーなし

術前の状態ではガッタパーチャが鬚粗に認められシーラーが吸収したことを想像させる。いうまでもなくシーラーは薬剤である。薬剤はそれ自体が溶解することで効能を発揮する、従って招来空洞化を助長する可能性のあるシーラー併用はこのような難症例には適さない。コア除去後本症例はガッタパーチャのみを使用した垂直加圧法で根管充填を行なった(筆者は開業来シーラーを併用したことはない)。ただしこのような根尖孔の崩壊した症例では垂直加圧法の難易度は非常に高い。そこで通常軟化ガッタパーチャにより根管の印象をとり、その後根管外で熱をさまし再挿入することで極力収縮を押さえ加圧を可能にするようにしている。



図1 7.28  
|2の根尖部にはX線透過像が認められる。強い痛みではないが患者さんは常に違和感を感じていた。そして当該部に過去3回の手術を受けたそうである。そして改善傾向はなかったとのことである。2003年9月24日。



図2 7.28  
1週間隔で3回のレーザー照射(行田メソッド)を行なったところ違和感は消失した。患者さんはレーザーの効果を認めたようであった。2003年11月18日。



図3 8.17.08  
3回照射後の口腔内写真、2003年11月18日。|2の根尖付近には切開による瘢痕化が認められた。



図4  
1ヶ月に1回経過を観察し、約8ヶ月が経過するも透過像の改善は認められなかった。2004年5月18日。しかし3回のレーザー照射後から違和感の再発は起こらなかった。



図5  
患者さんと相談の結果、色調の不備もあった|1|2を再補綴することとなった。写真は2004年5月25日。



図6  
歯内療法を行ない、後に築造を行なった。マージンは歯肉縁下である。



図7  
最終補綴物装着後のX線写真。壊れた根尖にシーラーを使わず#140のガッタパーチャのみで垂直加圧根充を行なった。2004年7月6日。ポスト周囲の透過像はノンフィラーのレジンであり歯冠部はフィラー入りレジンで築造した。



図8  
装着から1週間の状態。特に|2のマージンは露出傾向を示している。2004年7月13日。



図9  
根充より約1年半の状態であるが、透過像は縮小化を示し、治癒傾向を伺わせている。2006年1月10日。



図10  
最終補綴物装着より3年の状態、軟組織の成熟が伺える。2007年7月2日。



図11  
最終補綴物装着より6年経過した2010年6月18日の状態。



## レーザー療法での症例と実践応用講座 3



図13  
根充から7年の状態。根尖部にはデンティンブリッジ様構造を認め、ガッタパーチャの分断が起きている。2011年4月25日。



図14  
透過像は完全に消失して骨の再生を認める。歯根膜にそって根尖が閉鎖している様子を観察することができる。2011年4月25日。



図15  
2011年5月2日、1||2は完全に周囲の歯とマッチングしている。術後7年。

## 4) 補綴処置終了

補綴処置終了し約9年が経過するが、マージンの露出等もなく良好な経過となっている。確実な歯内療法は確実な補綴処置を行なう上での要となる。また前医において根尖部を何回か執刀したため歯肉は収縮傾向を示し、最終補綴物装着時ではマージンの露出が観察されるも今ではマージンが隠れると同時に瘢痕組織の減少も認める。

## 5) なぜ病巣は治らなかったのかーそうか自由水か!

本症例ではレーザー照射後も根尖は開いたままで根管内にスペースを認めた。ではあのスペースでは何が起っていたのだろうか。もちろん細菌が生息していたことは事実であろう。とりわけ自然科学的な考えで行くとそこには水が、つまり水分があったということである。生命の活動には水は不可欠で細菌にとっても当然必要である。体内において目的を持たない水は厄介である、自由水と

呼ばれるこうした水はこのように、時として負の産物をもたらす。歯内療法において自由水が生じる空間を作らないことは非常に重要であることがわかる。ちなみに宇宙に放たれる宇宙船には生命体存在の証拠としてのH<sub>2</sub>Oの確認がミッションとなる。

## 6) セメント象牙境ーまとめてかえて

最近のX線写真を観察してみると透過像の消失はもちろん、デンティンブリッジ様構造が観察され、同時に根尖部でのガッタパーチャの分断が認められる。理想的な治癒像といえる。これはシーラーを併用しない確実な歯内療法では自由水を生じないことの結果ととらえている。しかし本症例のように歯科治療に懐疑的であった患者の治療導入に行田メソッドが奏功したことは事実である。レーザーが万能であれば我々の仕事はなくなってしまう、しかしこのようにレーザーを利用することで我々の仕事が増えることも事実である。

## Profile

## 行田 克則 先生

- 1982年 日本大学歯学部卒業
- 1986年 日本大学歯学部大学院卒業
- 1988年 上北沢歯科開設
- 2007年 四谷三栄町歯科開設
- 日本顎咬合学会評議員
- 日本大学歯学部非常勤講師 <学会会員>
- 日本顎咬合学会
- 日本補綴歯科学会
- 日本歯科審美学会
- 日本口腔インプラント学会
- The American Academy of Implant Dentistry
- The Academy of osseointegration

医療法人社団 は・匠会 上北沢歯科 住所:東京都世田谷区上北沢3-17-6 七星ビル2階 TEL:03-3329-5068  
四谷三栄町歯科 住所:東京都新宿区三栄町10番地 柳田ビル1階 TEL:03-3350-0817  
HP:<http://www.hatakumikai.com/>

SASAKI

お問い合わせ・ご意見:「C&amp;C」事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

Vol.28 August 2012 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。